

週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると血管が傷みます。すると血液がきちんと体じゅうに運ばれなくなりますよね、そうすると、どうなるでしょうか。血液が流れなくなった血管の周辺には酸素と栄養が補給されなくなるので、その部分の細胞は死滅します。この状態は“壊死”と呼ばれ、壊死をおこした皮膚や臓器の表面が融解したり、はがれたりします。この状態を“潰瘍”と言います。<図2>

左下図は、脚の付け根の動脈が狭くなり足先にかけて血流が少なくなった様子を示しています。閉塞性動脈硬化症へいそくせいどうみやくこうかしょうと呼ばれるこの病気になると痛みを伴い歩行できなくなり、病状が進むと足の細胞が壊死する場合もでてきます。

また、右下図のように手足の末梢血管が詰まる“閉塞性血栓性血管炎”へいそくせいけっせんせいけつかんえん（別名バージャー病）と呼ばれる病気もあります。写真のような壊死が進行すると、治療のために壊死した部分を切断しなければならないケースもあり、国の「指定難病」になっています。

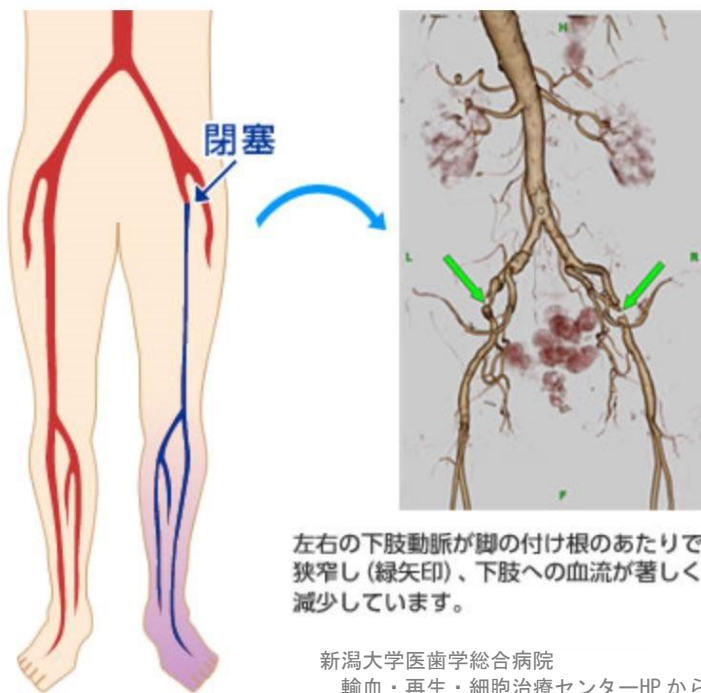
これらの病気は喫煙と極めて密接に関係していると言われていて、喫煙者に発症するケースが多く、禁煙すると病状は急速に回復するそうです。

タバコを吸い続けると、もしかするとこんな病気になり歩けなくなる上に、足の細胞まで死んでしまう事になるかも知れません。

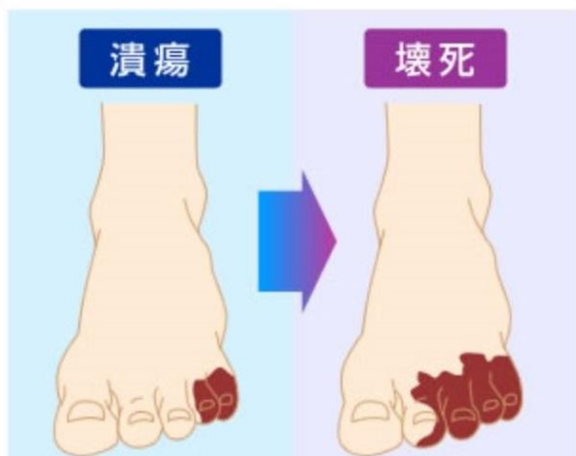
「それでもタバコを吸いますか？」と言いたくなりますよね。

産業デザイン科 奥田 恭久

閉塞性動脈硬化症



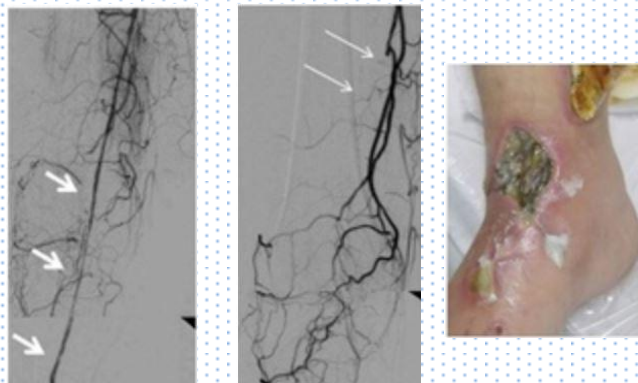
<図1>



<図2> 進行した例では潰瘍が出現し、壊死になります。

閉塞性血栓性血管炎（バージャー病）

通常 均等に流れている
血管が詰まった上流部分が太くなっている



国立循環器病研究センターHP から